

Title	癌と人 第34号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 34
Issue Date	2007-05-10
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/23661">http://hdl.handle.net/11094/23661</a>
DOI	
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

◎ 題 字 ◎

財団法人 大阪癌研究会  
前理事長 千代賢治



\*表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は川俣順一大阪大学名誉教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでもそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本という癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。

・ごあいさつ	1	松本圭史
・男子乳癌	2	松本圭史
・がん対策基本法成立を喜ぶ	5	田口鐵男
・カーボンニュートラル	8	小山博記
・がん治療とインフォームドコンセント	11	辻仲利政
・ニオイで癌の診断ができるか	14	岩永剛
・内視鏡下甲状腺手術	20	高津研三・野口眞三郎
・肝細胞癌の染色体異常を探る	22	小泉恭子
・癌抑制遺伝子 PLZF の細胞内局在制御機構の解析	23	檜枝美紀
・脂質は悪玉か善玉か —スフィンゴ脂質の悪性腫瘍に対する作用について—	25	岡崎俊朗
・ホルモン依存性癌の悪性度に関与する ユビキチン化酵素の解析	26	畠山鎮次
・新しい時代の分子標的：キノームから ホスファトームへ	29	島礼
・血小板凝集因子 Aggrus/podoplanin の測定系の開発とその臨床応用	30	加藤幸成
・テーラーメイド医療による胃癌予防戦略の開発	31	東健
・胃癌の新しい癌抑制遺伝子 RUNX3 の細胞分化・癌化機構の解明と遺伝子診断への応用	33	阪倉長平
・交感神経系神経堤幹細胞及び神経芽腫 cancer stem cells の分離と神経芽腫研究への応用	34	岩下寿秀
・新規 MAP キナーゼ制御因子 Sprouty/Spred の生理機能と癌	36	加藤玲子
・同種造血幹細胞移植後ペプチド療法のための腫瘍特異的抗原ペプチドの同定	37	神田善伸
・最も古いがん遺伝子の最も新しい話題	39	岡田雅人
・平成 17 年度事業報告	41	
・平成 17 年度収支計算書等	44	
・平成 18 年度事業計画書	49	
・平成 18 年度収支予算書	50	
・平成 18 年度寄付者御芳名	51	
・財団法人大阪癌研究会寄附行為	53	
・（財）大阪癌研究会役員・評議員・賛助会員名簿	56	